


ASEAN-5景気概況 (2022年9月)



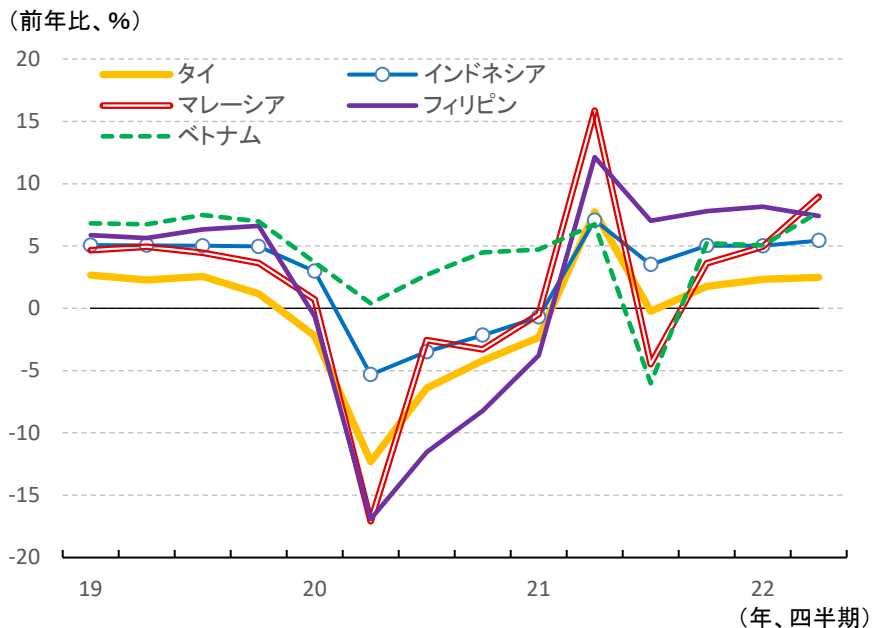
2022年9月2日

調査部 研究員 井口るり子

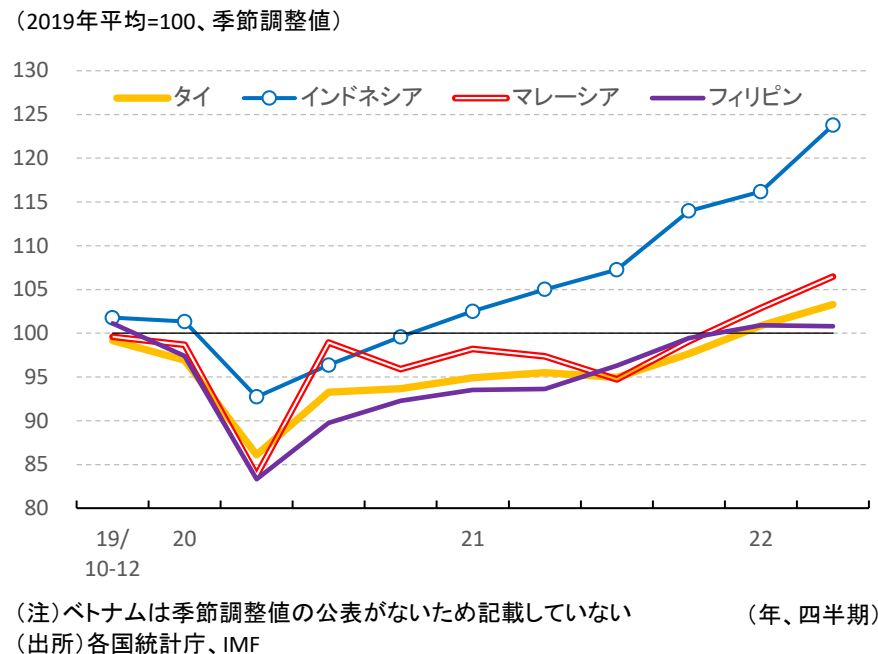
【ASEAN-5】景気は堅調

- ASEAN-5の2022年4~6月期の実質GDPは、フィリピンを除く4か国で前年比の伸び幅が拡大した。主要貿易相手国である中国の景気減速、生産における部品供給の遅れ、米国利上げによる通貨安とそれによる輸入物価の上昇などの下押し要因があるものの、経済活動再開に伴う個人消費の好調さに支えられ、各国の景気は堅調に推移している。
- 実質GDPの水準をみると、統計のないベトナムを除き4か国全てで新型コロナウイルス感染拡大前の水準を回復している。

実質GDP成長率



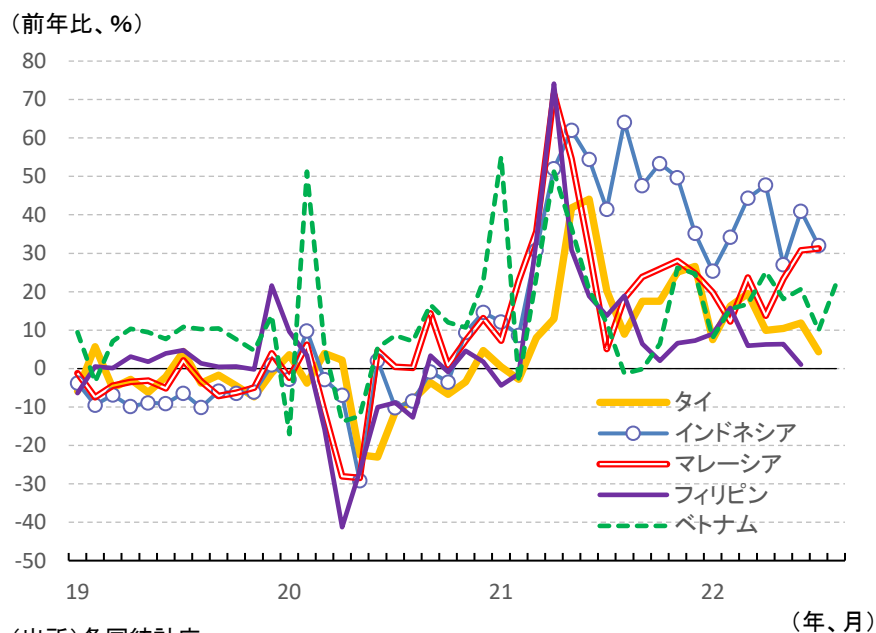
実質GDP(水準)



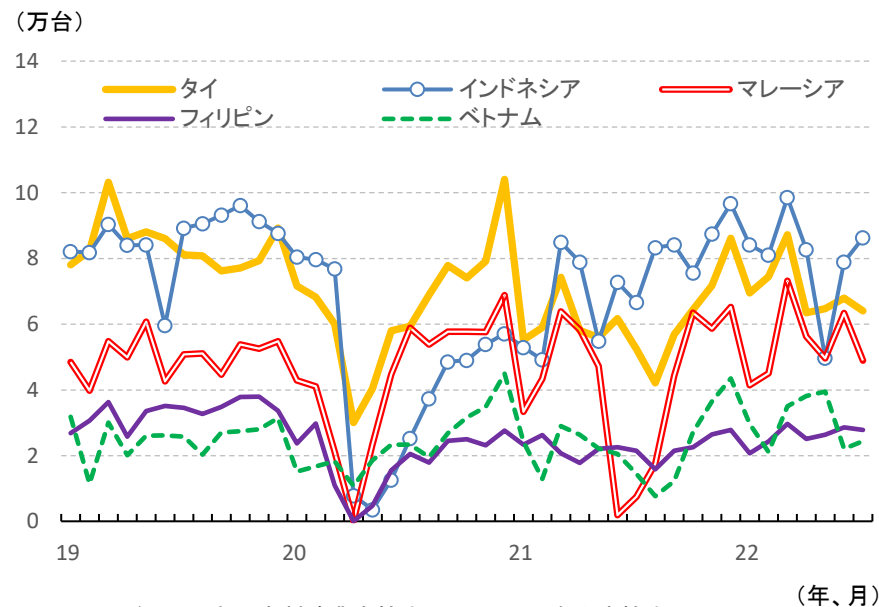
【ASEAN-5】輸出は堅調、自動車販売台数はコロナ前水準で横ばい推移

- 輸出は各国とも前年を上回って推移しており、輸出金額の水準も高い。資源輸出国であるインドネシア、マレーシアはエネルギー価格の上昇が輸出の追い風となっている。
- 自動車販売台数は部品不足による供給制約の影響があるものの、新型コロナウイルスの感染拡大一服により消費者の購入意欲は強く、コロナ前の水準をほぼ回復し、横ばい圏で推移している。

輸出



自動車販売台数

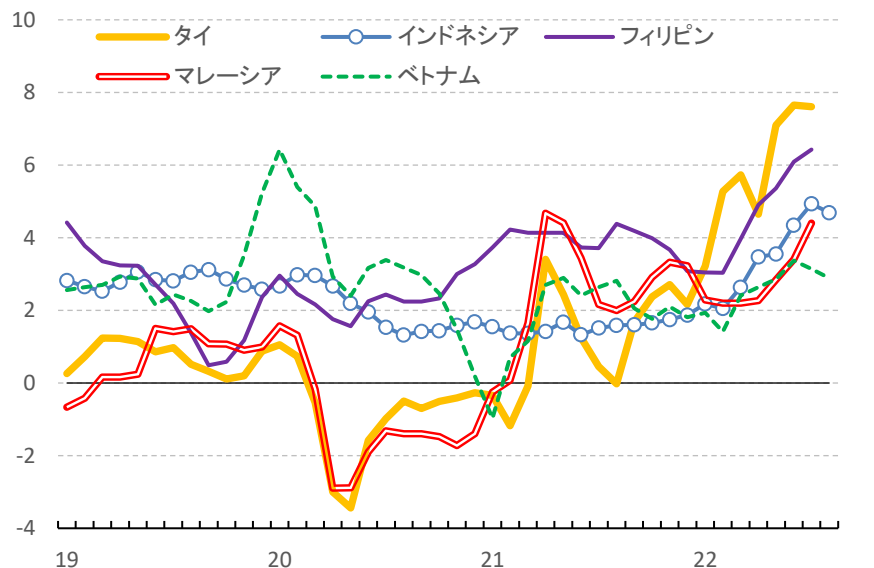


【ASEAN-5】物価上昇率は高止まり、政策金利は各国で引き上げ

- 消費者物価指数(総合)は、上昇率の一本調子の拡大は一服する兆しもあるが、依然として高水準にある。エネルギー関連品目の価格上昇には歯止めがかりつつあるが、それ以外の品目では上昇が加速しているものもある。
- 政策金利は、8月にタイで0.25%、フィリピンで0.50%、インドネシアで0.25%引き上げられた。政府目標を上回るインフレ率や、通貨安への対応を迫られており、年後半も各国で追加利上げが見込まれる。

消費者物価指数(総合)

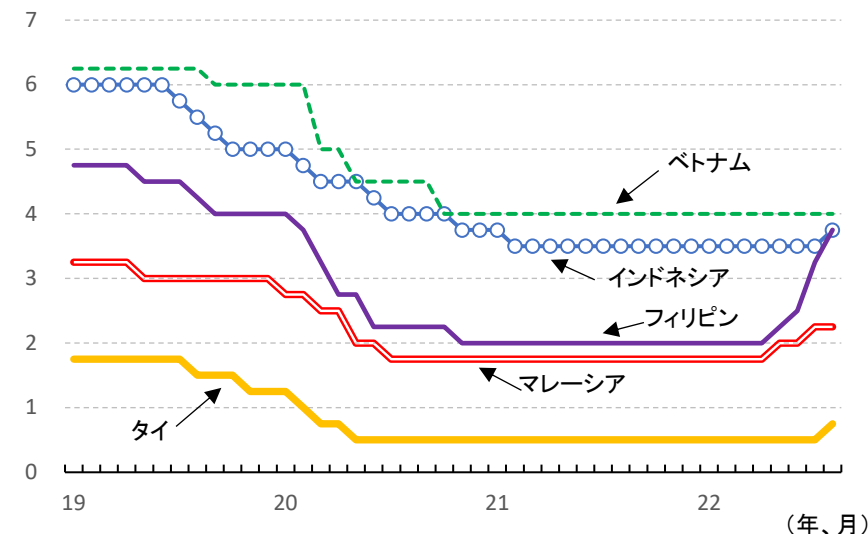
(前年比、%)



(出所)タイ:商務省、その他:各国統計庁

政策金利

(%)



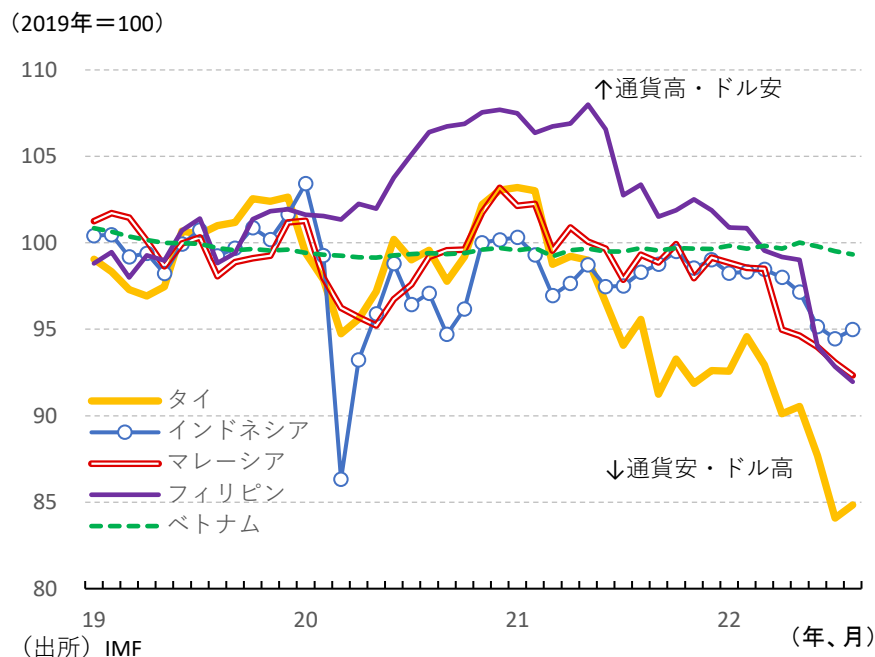
(注)ベトナムはリファイナンスレートを適用

(出所)各国中央銀行

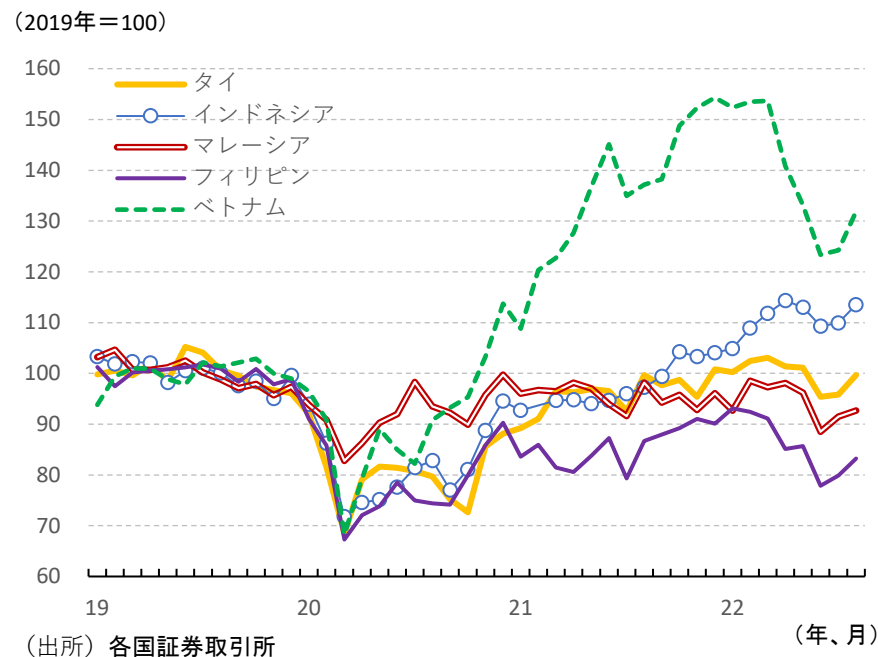
【ASEAN-5】各国いずれも通貨安、株価は持ち直し

- 為替相場は対ドルで下落傾向が続いている。8月は3ヶ国で利上げが行われたが、米国と比べ利上げペースが緩慢なこともあり、通貨安に歯止めがかかっていない。
- 株価は持ち直している。8月は米国の株高に連動し、ASEAN各国の株価も緩やかに上昇した。もっとも、中国の景気懸念や、世界的な金利上昇への警戒感根強く、株価上昇の重石となっている。

為替相場



株価

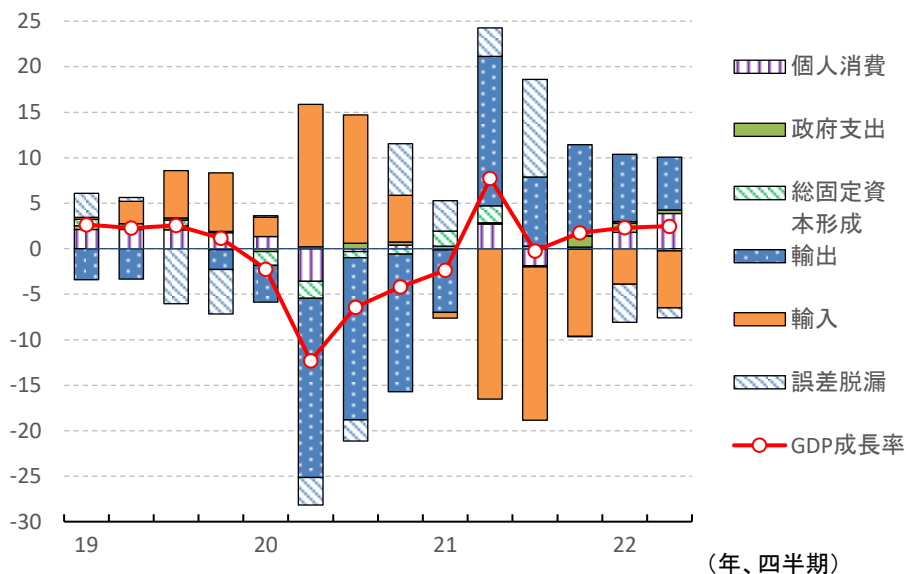


【タイ】景気は堅調

- タイの2022年4～6月期の実質GDP成長率は、前年比+2.5%と伸び幅が拡大した。個人消費は、サービス関連を中心に同+6.9%と伸びが加速した。一方、輸出は、自動車関連の不調などから同+8.5%と減速した。
- 7月の民間消費指数(PCI)は前月比-0.2%と2ヶ月連続で低下したものの、均してみれば上昇しており、引き続き消費の基調は良好とみられる。

実質GDP成長率

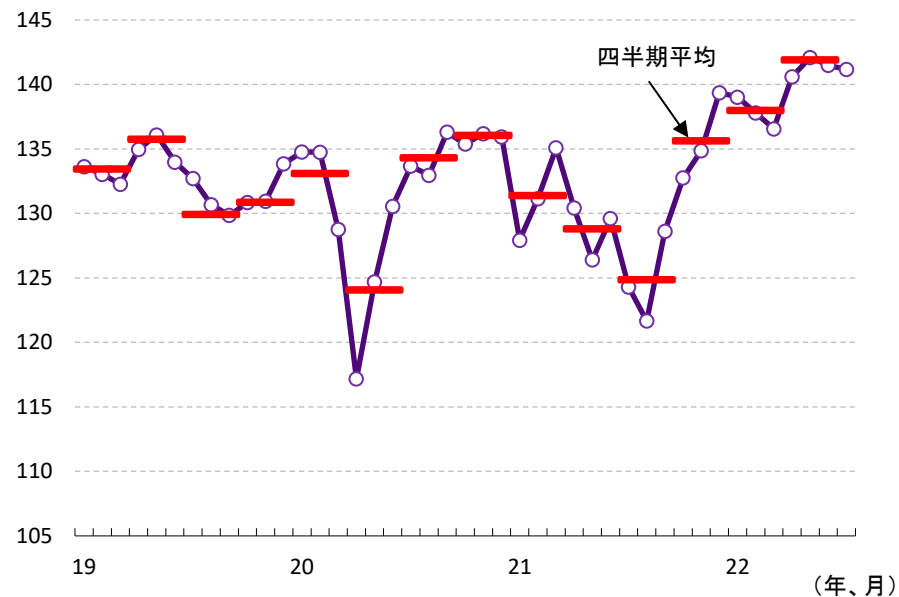
(前年比、%)



(出所)タイ国家経済社会開発委員会

民間消費指数(PCI)

(2010年=100、季節調整値)

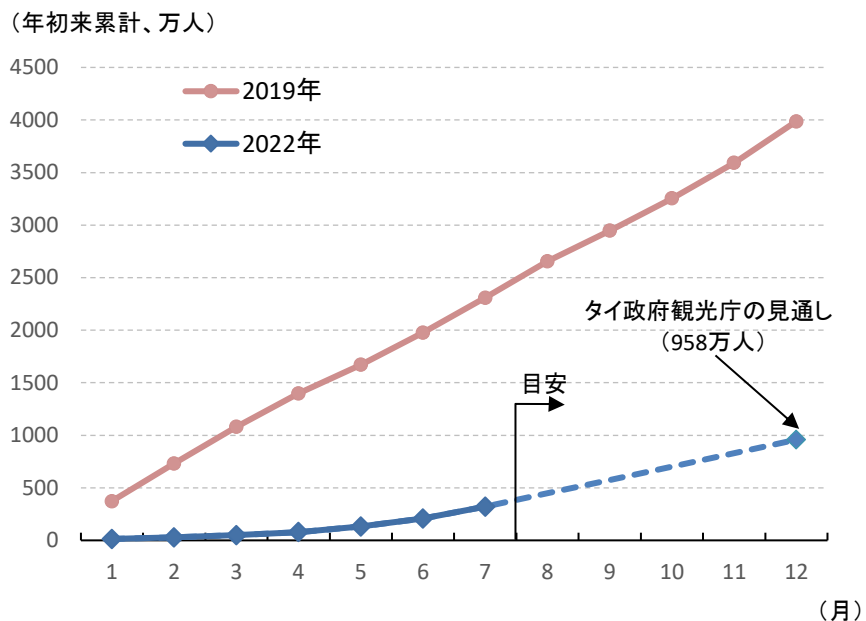


(出所)タイ中央銀行

【タイ】旅行者数の回復が景気回復の追い風

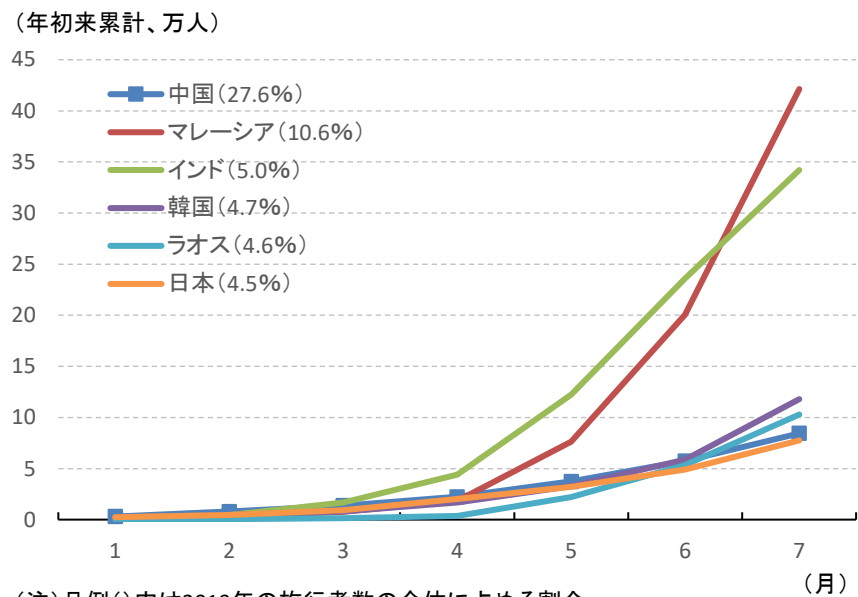
- 7月の外国人旅行者数は76.7万人と前月比+46.5%増加した。観光業がGDPの約12%（コロナ前）を占めるタイにおいて、旅行者数の回復が景気回復の追い風となっている。8月には、観光・スポーツ省は2022年の外国人旅行者数の見通しを958万人（7～12月で750万人の来訪見込み）に上昇修正した。
- もっとも、2019年の旅行者の28%を占めていた中国からの旅行者の回復は鈍い。中国の厳格なコロナ対策が長引けば、タイ経済の回復の下押し圧力となることが懸念される。

外国人旅行者数



(出所)タイ観光・スポーツ省

旅行者数(国別)の状況



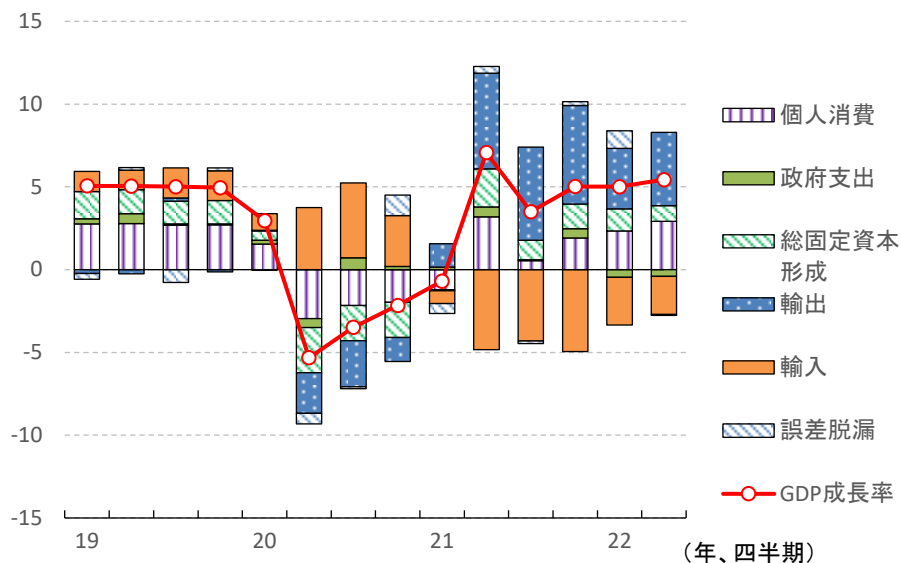
(注) 凡例()内は2019年の旅行者数の全体に占める割合
(出所)タイ観光・スポーツ省

【インドネシア】景気は堅調

- インドネシアの2022年4～6月期の実質GDP成長率は、前年比+5.4%と伸び幅が拡大した。個人消費(同+5.5%)や輸出(同+19.7%)が全体を押し上げた。
- 8月の消費者物価上昇率は、前年比+4.7%と6ヶ月ぶりに鈍化した。「食材・飲食品・たばこ類」(同+7.7%)や「運輸」(同+6.6%)など、これまで上昇率が大きかった項目で伸びが一服した。もっとも、依然として多くの品目で伸び率が拡大しており、食品とエネルギーを除いたコアは同+3.0%に加速した。

実質GDP成長率

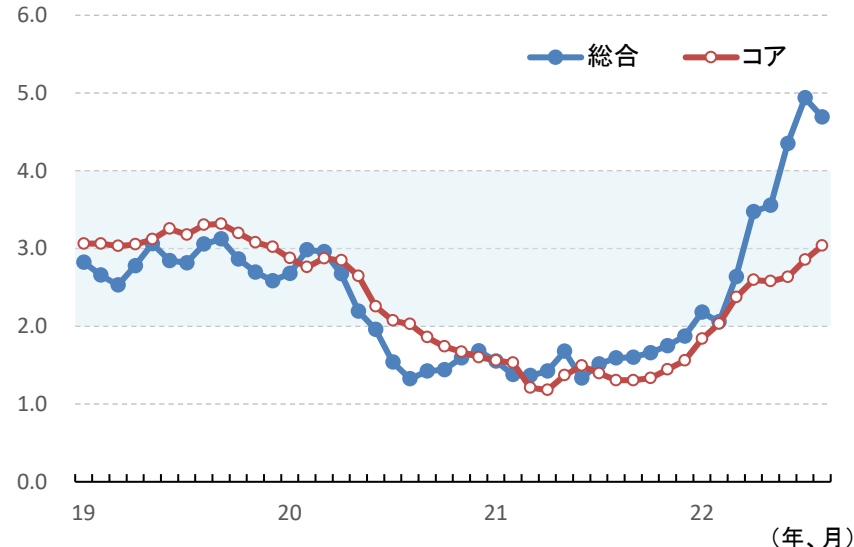
(前年比、%)



(出所)インドネシア中央統計庁

消費者物価指数

(%)

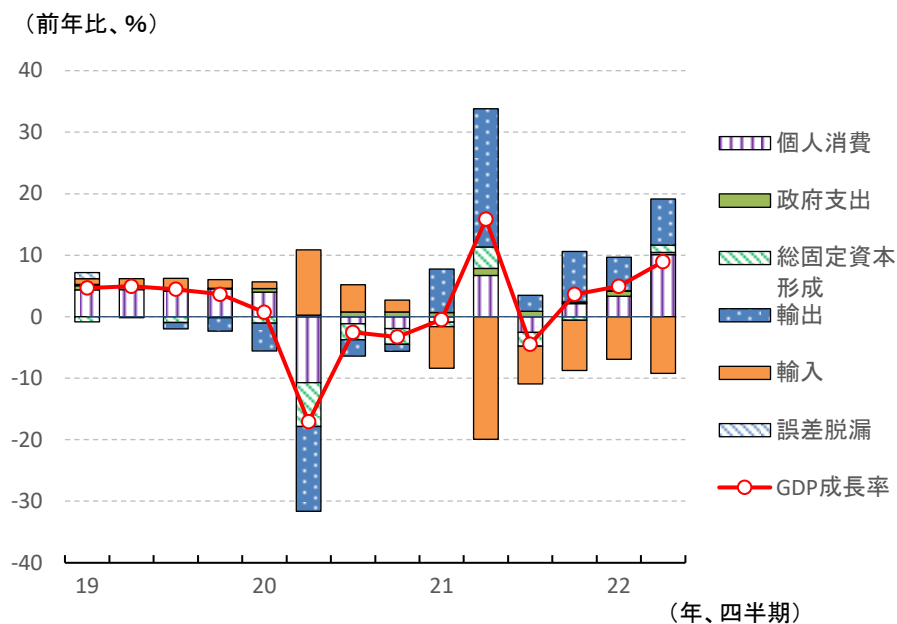


(注)シャドーのかかっている2.0~4.0%が中央銀行の示す物価目標
(出所)インドネシア中央統計庁

【マレーシア】景気は堅調

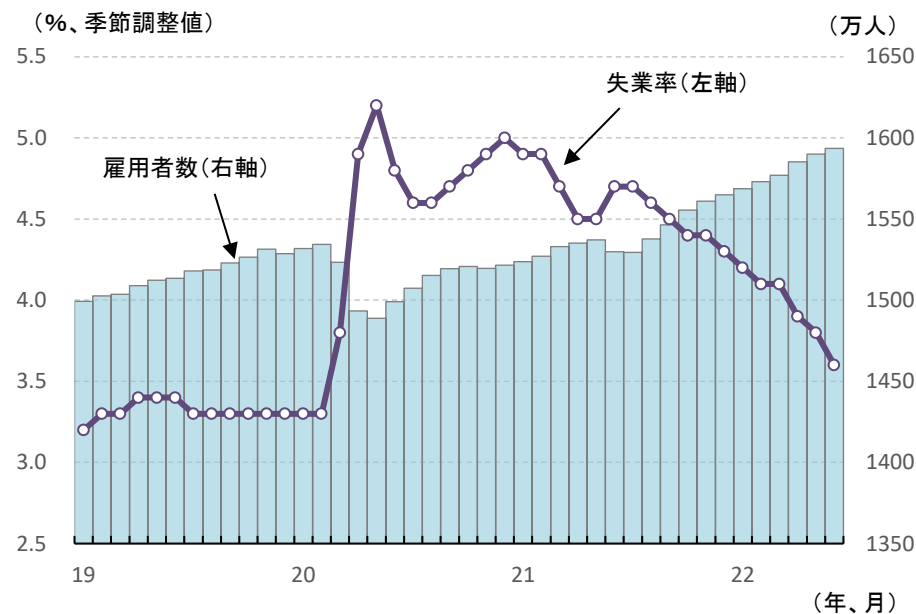
- マレーシアの2022年4～6月期の実質GDP成長率は、前年比+5.4%と伸び幅が拡大した。良好な雇用環境や新型コロナウイルス関連規制の緩和などを背景に、個人消費(同+18.3%)が成長をけん引した。また、輸出(同+10.4%)も伸びが拡大した。
- 6月の失業率は3.6%と前月から0.2ポイント低下した。また、雇用者数は1593.6万人と増加が続いた。新型コロナウイルスの感染拡大で停止していた外国人労働者の受け入れが再開されたものの、実際の受け入れには遅れが目立ち、人手不足が深刻化している。

GDP成長率



(出所)マレーシア統計庁

失業率と雇用者数

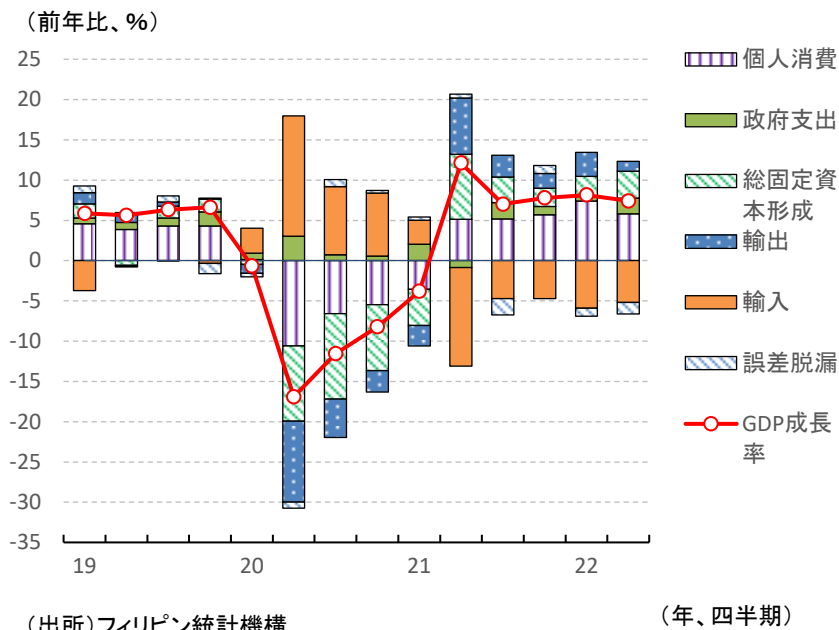


(出所)マレーシア統計庁

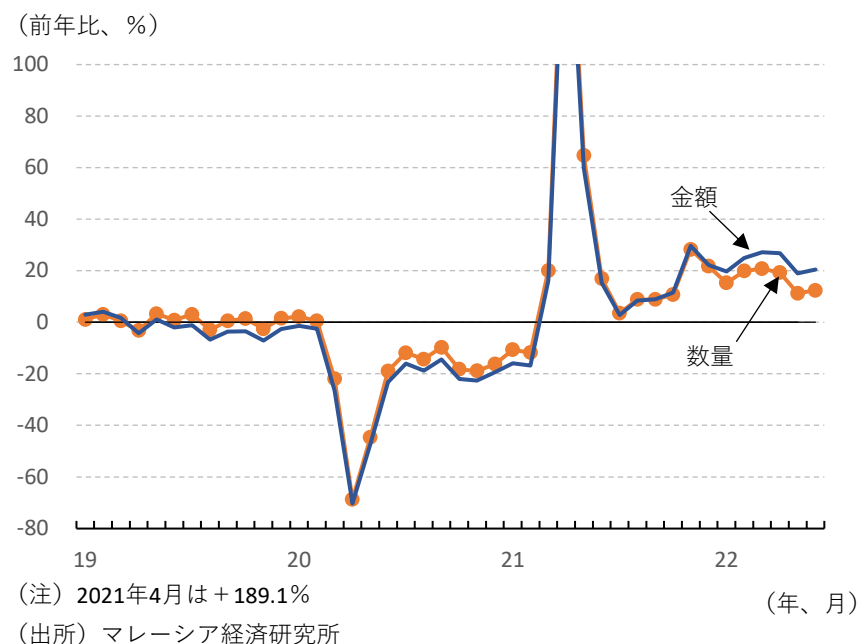
【フィリピン】景気は堅調

- フィリピンの2022年4～6月期の実質GDP成長率は、前年比+7.4%とわずかに鈍化したものの、依然として高い成長が続いた。総固定資本形成(同+13.2%)は伸びが拡大、個人消費(同+8.6%)は伸びがわずかに鈍化したが高成長が続いた。輸出(同+4.3%)の伸びは鈍化した
- 産業全体の販売額の合計である販売統計は、6月に前年比+20.4%と16ヶ月連続で増加した。「石炭・石油精製製品」(同+102.2%)や「飲料」(同+75.7%)の伸びが高かった。数量ベースでも同+12.4%増加した。

実質GDP成長率



販売統計



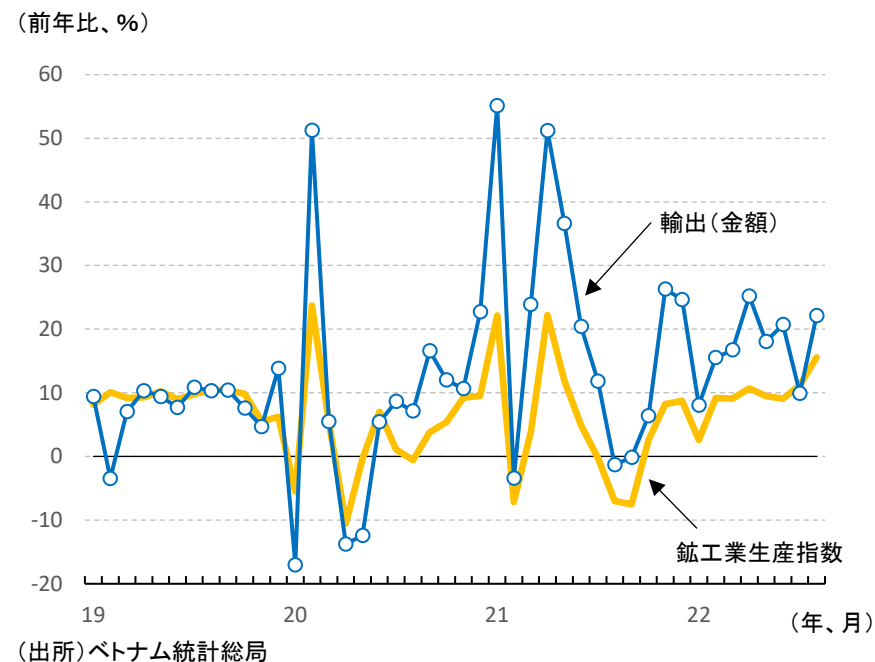
【ベトナム】景気は堅調

- ベトナムの2022年4～6月期の実質GDP成長率は、前年比+7.7%と伸び幅が拡大した。業種別では、製造業(同+9.9%)が最も高い伸びを示した。
- 8月の鉱工業生産指数は前年比+15.6%と伸びが拡大した。一方、輸出は同+22.1%増加し、伸びは加速した。「履物」(同+186.5%)の伸びが大きかったほか、繊維・衣類(+42.4%)などで伸びが加速した。

GDP成長率



鉱工業生産指数・輸出



ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 井口 TEL:03-6733-4945 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください